
ある少年の甘い事件簿

龍門

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある少年の甘い事件簿

【Nコード】

N8508J

【作者名】

龍門

【あらすじ】

少し残念な男の子のバレンタインデーの話。

(前書き)

バレンタインデーなので。

一時限目

寒い……。今日はその一言で簡単に片付きそうな一日だ。

毎度ながら、教師のつまらなく、役に立つのかさも分からない事を教えられ、生徒も生徒で「教師糞くらえ！」バリの反抗の意を示している。

まあ、俺も生徒だから「そんな事言うなよ」なんて言える訳もなく……。

ホント、簡単な話ダルい。

キーン・コーン・カーン・コーン。

シンプルな、授業の終りを告げるチャイム。生徒が一斉に立ち上がり、各々の自由時間を満喫する。

「ねえ、ねえ。あげた？」

教室の後ろの方で女子が、コソコソと話している。いや、別に俺は聞こうとしているのではなく、たまたま聞こえてくるのだ。俺は悪くない。などと心の中で言い訳はするも、やはり聞いてしまう。

「まだあげてない。てか、やっぱりあげるのやめる！」

何をあげると言っているのか？

「何言ってるの！今日の為に作ったんでしょ！？勿体無いじゃん！」

一人の女子。まあ、ここでは女子Aとでも言っとくか。その女子Aが、ええーと女子Bに言っている。その声はコソコソと言えない程の大きさだ。これなら聞こえてもしょうがない。

ところで、作る？何を？

「でも……」

女子Bの声が小さくなる。

「あげないと！！」

女子Aの声がますます大きくなる。すると、「あげないと！！」

の声と同時に、教室に居る男子共が、ビクッ!とした。

「じゃー放課後にする?」

女子Aが女子Bに訪ねる。

「うん・・・」

女子Bの声はますます小さくなっている。

何なのだ、一体・・・。

キーン・コーン・カーン・コーン。

次の授業の始まりを告げるチャイム。

二時限目

次の教科は英語。こんなものは使う奴と使わない奴との差が激しい。なので、全員が全員覚える必要は無いと思う。

外国などに興味があるなら覚えれば良いし、夢も無い奴は別に覚えなくて良いと思う。

俺もどっちかと言うと覚えな派だ。

ところで・・・。先程女子が言っていた事について・・・。

作る・・・。あげる・・・。今日の為・・・。

俺はノートに、その言葉達を書いていく・・・。

一体なんなのか?全くの不明。

あつ、そう言えば。何故か男子が皆ビクッ!としていた筈だ。これはヒントかもしれない・・・。

男子がビクッ!・・・。男子には耐えがたいモノなのか?それとも嬉しいモノなのか?

考えても答えはでない。あつ、あそこに入る単語解る・・・。

キーン・コーン・カーン・コーン。

二時限目の終りを告げるチャイムが鳴る。

三時限目

又もや自由時間の時、あげる・あげないの話が出ていた。謎は深まるばかりだ。名探偵の俺としては、何が何でも解決しなくては。何故なら、モヤモヤするからだ。これじゃ、夜も眠れない。

四時限目

ダメだ……。思考能力は低下し。腹減った……。

昼

ただいま学食でカレーうどんを頼んだ。皆から勇者を見る様な眼で見られる。悪くない気分だ……。

何てキモい事考えている暇は無い。

ところで、さっきから男連中の中に、紙袋を持った奴が居る。しかも紙袋を持っている奴は皆、イケメンだ。これも女子が話していた事に関係するのかな？

「おい！八城^{やしろ}！」

今日初めて名前を呼ばれた……。少し感動。いやいや、そんな事より。

今俺の名を呼んだのは大木^{おおき}だ。中学からの友だ。まあ、面倒だから男子Bで良いや。

「何だ？」

男子Bが俺の前に座り、聞いてきた。

「何を？」

「何をつて、チョコだよ。チョコレート」

は？何を言って・・・

「あああああああ！！」

思わず叫ぶ俺。学食に居る皆が俺を見る。でも気にしない。

「ど、どうした？いきなり・・・」

男子Bが聞くが、それどころじゃない。

そうだ、今日はバレンタインデーではないか・・・。忘れていた。家を出る時に母さんが「今年は何個貰えるのかな？」と笑いながら言っていた。ちなみに去年は0個だ。

「謎は解けた・・・」

「は？謎？」

「いやいや、男子・・・大木には関係ないよ」

今の段階で0個・・・ヤバイ！！

五時限目

ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。

0個って、0個って。誰かくれ！俺にチョコを！

授業何て受けてられるか・・・。クソ！ヤバイ！また姉ちゃんと母さんに笑われる。

去年も0個だった事を知られ、一週間程笑われた。もうあんな屈辱はごめんだ。

六時限目

もうダメか・・・。いや、諦めるな、俺！まだ希望はある！先程女子が話していた「放課後」と言う、甘酸っぱいイベントがある筈だ！諦めるな、俺！

帰宅時間

悲しみしか残らない……。俺モチないなあ。しみじみと感じる。

周りにはチョコを貰った様な奴が居る……。死んでしまえ!!!
……。そうだ! まだ下駄箱があるじゃないか! まだ希望は捨てるな、俺!

俺は小走りに下駄箱へ向かった。

……。ない。この学校の下駄箱は開けるタイプではない。だから見た瞬間に解る。俺の下駄箱には甘いお菓子は入っていない。

「GAME OVERか……」

少し発音良く言った。

帰宅路

下を向いてしまう。情けなさで虚しさで悲しさが、俺を襲う。

「また笑われる……。恥覚悟で買って帰るか? いやいや、それはあまりにも悲し過ぎる」

独り言を呟きながら帰宅する。かなり危ない奴だ……。

もうこの世からバレンタインデーなんて無くなっちゃえば良いんだ! 消えろ! チョコを貰った男共。

今年も、姉ちゃんのお情けでチョコ貰うのか……。恥ずかしい。

「ま、待って!!!」

後ろから女子の声が聞こえる。はあ、ここでも甘酸っぱいイベントですか? 青春なんて糞くらえだ!!! 俺はトボトボと歩く。

「ま、待って!」

まだ待ってくれないのか? 女子が叫んでいる。

「や、八城君!!!」

!!!!!!!!!!!!!!

俺は自分の名前を呼ばれ、振り返った。そこに居たのは女子B事、
かわしまかおる
川島薫だ。まさか！まさか！

「ど、どうしたの？」

なるべく平然を装った。でも心臓はバクバクだった。

「あ、あのね。あの〜」

女子B・・・いや、川島は少し顔を赤くしている。

「何？」

平然を装って・・・。

「コレ！！」

そう言っただ俺の前にチョコ、チョコレートが入っているだろう箱が出された。

「お、俺に？」

もう俺は嬉しさのあまり、声が裏返ってしまった。

「うん・・・」

川島は下を向きながら、そう言った。

「あ、ありがとう・・・」

俺も顔が赤くなる。

「そ、それじゃ！また明日学校で！！」

そう言っただ川島は走り出した。俺は川島が見えなくなるまで見ていた。顔は赤いまま。

家

家に帰ってさっそく母さんと姉ちゃんに自慢した。でもやっぱり笑われた。「一個貰っただけでそんなに喜んで！」って。結局恥はかいたが、チョコは凄く甘かった。

さっき、バレンタインデー無くなれ言っただごめんなさい。青春万歳！！！！！！

（後書き）

バレンタインデーは日曜ですが、それじゃー甘酸っぱくないので、学校のある日に変えました。ぶっちゃけ書き終わってから、「今日、日曜じゃん」と気付きました。俺も八城と同じで残念です。

ええー、応ハッピーエンドです。残念は男なので、残念な終わり方も考えたんですけど、やっぱり今回ぐらいは・・・とまあ、お情けでハッピーエンドに（笑）。

てか普通気付くよね。残念じゃなくて馬鹿なんですよ彼は・・・。短編初めてで少し緊張・・・。

読んでくれた方！ありがとうございます！

連載しているのと、だいぶジャンルが異なりますが、そちらも読んでくれたら嬉しいです。

ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8508j/>

ある少年の甘い事件簿

2010年10月21日23時45分発行